

# 身を挺して患者の命をまもる医療従事者たち

## 日本共産党議員団医療機関と懇談

共産党市議団はコロナ危機の下で、市民の命と健康を守るため、自らの身の危険を背負いながら最前線でご苦労されて来た、JAとりで

総合医療センター・取手市医師会を訪問し、新型コロナ感染対策の現状などでご意見を伺いました。

### 医師会圏内に「PCR検査センター」設置へ調整中

取手市医師会の事務局長・事務局の方との懇談で病院は、新型コロナウイルス感染が広がる中で、軽症者を受け入れたとのこと。「特にJAとりで総合医療センターが院内感染で閉鎖された時は、電話が鳴りっぱなしだった」と当時の様子を話されました。新型コロナウイルス感染症拡大の下、首都圏に最も近い取手市医師会圏内地域への「PCRセンター設置を」との声にこたえ、現在茨城県医師会と取手市医師会、関係機関との調整に入っているとの報告もあ

りました。

新型コロナウイルス感染拡大で、日本の医療体制の脆弱さが明らかになり、地域の医療機関は深刻な事態に見舞われました。日本共産党は、国・県・取手市へ医療体制の充実を求め引き続き頑張ってもらいます。



公益社団法人 取手市医師会  
取手北相馬保健医療センター医師会病院

### 院内感染乗り越えた教訓生かして・・・

JAとりで総合医療センターでは、事務部長・事務副部長から、3月の院内感染が起き、これまでの「入院患者や重篤な患者の受入れ先等の対応」、更には「新型コロナ感染者の入院や治療、PCR検体の水戸衛生研究所搬送など事態は深刻そのものだった」と話されました。JAとりで総合医療センターは県内に1か所の第一種感染症

指定病院であり、大きな役割を果たす病院です。しかし重篤患者を救うための「ECMO」は県内に、土浦協同病院・つくば大・日立の病院しかなく、日立への搬送等、患者を救う苦労を話されました。

最後に事務部長から「今回の院内感染という大変な事態を乗り越えてきたことを教訓にして、信頼される病院であり続けるため頑張っていきます」と語られました。

## 感染の再流行防止へ医療・検査体制拡充を

日本共産党 県南議員 竜ヶ崎保健所所長と懇談

7月10日（金）山中たい子党県議、牛久・龍ヶ崎・取手市議団でコロナ感染対策について、保健所を訪問し、所長（医師）と懇談しました。

保健所は「地域保健法」により、精神保健・難病・エイズ対策や食品衛生・環境衛生・医事・薬事等広域的監視・検査等が位置付けられ、今回のコロナ感染症は県・保健所所管となっています。

### 保健所統廃合で感染症対策後退

昨年11月の茨城県内保健所統廃合により、12あった県保健所が9カ所に削減、竜ヶ崎保健所管内に新たに阿見町と美浦村を加え9市町村に、人口規模は約46万人に拡大しました。

「この間電話相談が殺到し、日常業務もままならないほどだった」こと、保健所統廃合で、公衆衛生業務を後退させたのは国と県であること、PCR検査や感染者の移送の実態等について「感染した本人や家族に対する誹謗中傷の相談もあり」、「そうしたことが感染を隠し広げることになる」と具体的な意見・要望を聞かせていただきました。



龍ヶ崎、取手、牛久、守谷、稲敷、美浦、阿見、河内、利根の9市町村を管轄地域とする竜ヶ崎保健所

### 待ったなしの保健業務体制強化

PCR検査が進まず、保健所がパンク状態に陥り、各地で市中感染、院内感染続発、救急患者のたらいまわしや、「手遅れ死」等悲惨な事態が広がりました。

保健所を、行政改革の名の下で統廃合により約30年の間に、全国で約半分に削減するなど、公衆衛生業務を後退させた政府と県の責任が問われています。

日本共産党は保健所の業務体制・検査体制の拡充を求めます。

## 豪雨災害

### 生活・事業再建へ 政府が直接支援を 日本共産党被災地・全国各地で支援活動

記録的豪雨が、九州地方をはじめ各地に甚大な被害をもたらしています。志位和夫委員長は、新型コロナと豪雨の2重災害のもとで懸命の復旧・救援作業が続く被災地熊本県球磨村、人吉市に駆けつけ、両首長から実状の聞き取り。熊本県庁で、全国から日本共産党あてに寄せられた、被災地救援募金を知事に手渡し懇談。被災地の首長らの要望を伝え、被災地と知事の要請を国に連絡、速やかな対応を求めました。

党取手市委員会は、市議団を先頭に各地で救援募金に取り組み、7月12日か

ら取手駅や藤代駅での募金活動。党取手市委員会に届けられた救援募金合わせ110,342円。（7月20日現在）ご協力頂いた皆さんにお礼を申し上げます。引き続きご協力お願い申し上げます。

お預かりした募金は党中央委員会を通じ被災地に届けています。



豪雨災害募金を訴える共産党市議団等=7月12日、取手駅西口前



日本共産党  
創立98周年  
記念講演会

## コロナ危機乗り越え

# 新しい日本と世界を

志位和夫委員長が講演

日本共産党は7月15日、党本部で創立98周年記念講演会を開き、オンライン中継しました。

志位委員長は、コロナ危機の体験を通じて国民の意識の中に前向きな大きな変化が生まれていると、△連帯の力で未来を開く △資本主義体制が問われている △世界各国政府と市民社会の連帯 △人類史の中でのパンデミックなど四つの角度から



記念講演する志位和夫委員長  
＝7月15日、党本部

講演。

同志社大学教授の岡野八代さん、翻訳家の池田香代子さん、憲法学者の小林節さん、政治学者の白井聡さんのビデオメッセージが紹介されました。



## 突然の保護者説明会

### 公立戸頭北保育所廃止案

東京はじめ全国で再び新型コロナウイルスの新規感染者が急増し、学校・保育所、保護者と教職員・保育士も、子どもたちの感染拡大防止に、細心の注意を払っての教育・保育が行われています。

そんな中、2年後の市立戸頭北保育所の廃止案について7月11日の保護者会で説明会が行われていたことがわかりました。保護者らは、昨年秋に示された市の第4次保育所整備計画による北保育所廃止案の説明会開催を希望しながら、コロナ危機によりそれを自粛してしまし

た。取手市の説明会は、「3密を避ける」として2回に分散して行われました。

学校では、緊急事態解除後の分散登校の教訓を生かし3密を避けた授業につとめ、「新しい生活様式」の中での少人数クラスを求めています。これからの保育所運営も、密集を避ける十分な対応が可能な施設運営が検討されなければなりません。

公立保育所をさらに削減し、大規模化することは、感染拡大防止の立場から見ても疑問です。

核兵器のない平和で希望ある世界を！

## 2020国民平和進行 取手

5月10日北海道礼文島から始まった2020年原水爆禁止国民平和進行の、茨城県から千葉県への引継ぎ式が取手市福祉交流センター前で13日に行われました。

今年は新型コロナウイルスの影響で行進は行われず各自治体で首長との懇談などが行われ、取手市では、教育長・総務部長が集会に参加しました。

市民の願いを込めたペナントや横断幕を千葉県代表に引き継ぎました。

核兵器廃絶を訴える集会参加者  
＝7月13日、福祉交流センター



## コロナ対策

### 取手市 第2次補正

# いのち・経営まもる対策 拡充速やかに届けよ

6月17日閉会の通常国会で議決した新型コロナウイルス対策第2次補正予算の地方創生臨時交付金は2兆円。取手市は8億2700万円の交付金活用の新型コロナウイルス対策の「事業計画」策定と、8月7日(予定)の臨時市議会

での補正予算議決を目指しています。

「コロナ禍」で命と健康、暮らし・経営を守る市民の要望と地域の要請にこたえる対策・予算化で速やかに現場に届けることが求められます。

## 市民まもる

### 対策に議会挙げて

日本共産党 市議会議員に要請



6月市議会で「コロナ質問」は禁止され、週一回程度行われてきた「議会感染症対策会議」は、6月議会以降7月3日開催の1回だけです。

7月17日、日本共産党議員団(加増みつ子団長)は齋藤久代議長(議会感染症

対策会議座長)に対し、議会として「新型コロナ」対策事業の具体化促進の為、本格的な取り組みへ速やかに①感染症対策会議 ②議会3常任委員会 ③議会全員協議会の開催を求める要請書を提出しました。

## “文化の灯を消すな”

「新型コロナ」自粛によって、存続困難な状況にある「演劇」「音楽」「映画」3団体が5月22日、文部科学省・文化庁に「文化芸術復興基金」創設を求め要望書を提出。基金創設を「コロナ時の補てんにとどめず、コロナ収束後の復興支援の土台として強く要請する」としていま

す。文化芸術家・団体などの運動と世論によって、政府の第2次補正予算に、雇用調整助成金・持続化給付金のフリーランスへの対象緩和や、「文化芸術活動の継続支援事業」(予算額509億円)が新設。「文化芸術復興基金」が創設される見通しです。

### 文化を守る地方行政の役割を今こそ

取手市内の文化芸術家や市民団体も「演劇実演・コンサート演奏・鑑賞の機会がなく、満足に練習できない」「ロケに出かけられない」、公民館や市民会館利用も「新しい生活様式」の下で、市民活動も困難に。

長期のイベント中止・制限は、音楽家や演劇人

の演奏・演技能力の維持向上への機会が失われる危険性をはらんでいます。

経済的な損失補償はもちろん重要ですが、豊かな文化芸術を作り出すうえで、芸術家支援と市民活動発展への地方文化行政の役割が求められています。

### 文化3団体政府要請 文化芸術活動「継続支援事業」予算化